

2020 年度国際ユース作文コンテスト

【子どもの部】 佳作

2030 年の私からの手紙

(原文)

野口 恵衣 (15 歳)

静岡県

不二聖心女子学院中学校

2020 年の世界を生きているあなたにとって、2030 年は想像しがたいものでしょう。でも想像してみてください。楽しい気持ちになりますか？ ワクワクしますか？ そんな夢物語で語れる事ばかりではないでしょう。

では、今のあなたが 2030 と聞いて何を思い起こしますか？ SDGs ではないでしょうか。SDGs とは、国連が定めた持続可能な開発目標のことで、2030 年までに持続可能でより良い世界を目指す国際目標です。17 のゴール・169 のターゲットから構成され、地球上の「誰一人取り残さない」ことを誓っています。SDGs は発展途上国のみならず、先進国自身が取り組む、全てのものに共通しているものです。

今の世界は確実に 2020 年に比べれば良くなっています。世界の貧困もだんだん減っています。世界のエネルギーは、石油やガスから、太陽光や風力、地熱といった再生可能なエネルギーへと変わっています。今のあなた達が気をつけている「エアコンを使いすぎない」「水を出しっぱなしにしない」「食べ物をむだにしない」という事が大きく影響しているのです。少しの行動が、みんながやったら大きな力になっているのです。だから、そういうことを続けて下さい。

今のあなたが一番気にしていた子供達の貧困の状態は良くなっていると言っても、まだまだ問題は多いです。栄養が足りない子供、安全な水が無い国、トイレが使えない国、そのような人達に目を向けて、今のあなたに出来る事を考えてみて下さい。家庭の中や学校のみんなと話し合っ SDGs に取り組んでみて下さい。この 10 年間のあなたの取り組みが、今の世界を変えてくれたんだと思います。

今のあなたは、時々未来について悲観的になっていますね。でもそんな風に思うことはありません。新型コロナウイルスも収束し、希望していたスペインへの留学も行くことが出来ました。海外で働きたいと思っていたあなたは、留学での経験を生かして、社会貢献をしたいと思うようになりました。

中学生のあなたが取り組んだ SDGs も大きなきっかけになったと思います。企業で働くあなたは、海外とのかけ橋となり、世界各国の人達と仕事をしています。そして、大好きなファッションのビジネスで貧困な国の人達に仕事をあげます。それはお母さんたちです。そうすると、その子供達は学校

に行けます。学校には給食室を作りました。食材は世界中から集まりました。そうして栄養が足りなくなる事はなくなりました。水の問題など、まだ良くなっていないところがありますが、日本のプロジェクトチームががんばっています。

今の世界は「誰一人取り残さない」世界に向かっていきます。そのような社会に私は貢献しています。だから、2020年の自分に伝えたい事があります。それは、今だけに集中して生きることです。2030年の世界は、今では想像できないことがいっぱいあります。将来のことはわかりません。だから、先を考えてネガティブに考えても、あまりポジティブ過ぎても良くないのです。今を一生懸命生きて下さい。そして一番大切なのは、どんな事があっても適応する能力です。どんなに社会が変わっても、その社会に合わせた生き方が出来るように、力を付けて行く事です。